「会員短信 5」

『俳句とのご縁はラジオから』　　壽命秀次

平成十七年三月、四十年の公務員生活を終え、四月から嘱託相談員として、自家用車で通勤を始めた頃のことと思います。東京ＴＢＳラジオで、アナウンサーの森本毅郎さんが担当する「毅郎スタンバイ」と言う放送を聴きながら通勤していました。水曜日は、俳句が趣味の気象予報士の森田正光さんがゲスト出演する気象コーナーがありました。森田さんは、石原裕次郎さんの命日の七月十七日は毎年土砂降りで晴れの日が無いので、この頃の雨を「裕次郎雨」と称し季語にしようという主旨の運動をしているとのことでした。そして、その一環として、裕次郎雨を季語とした俳句を募集するとのお話でした。この放送で俳句に興味を覚え、「裕次郎雨傘売る人の無口なり」などの数句を作ってＴＢＳラジオに送りました。

その後、十月のある日、本阿弥書店の『俳壇』という月刊誌が贈呈として送られ、私の「傘売る人」の句が掲載されていました。そして、この本で「滑稽俳壇」の前の「微苦笑俳壇」の投句欄を知り、度々投句するようになりました。何度目かの投句で、「秋茜群れ飛び交ふに事故なしや」が特選となりました。以後、購読も十年以上。独り遊びと呆け防止の一方策と思い、時間をみつけて作句に励んでいます。「啓蟄や大腸検査より凱旋」「裸婦像の乳房ばかりに降りる霜」。

ラジオ番組の企画に応募したことから始めた俳句に、ますます元気をもらっています。

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。